（様式１）

学力向上のための重点プラン【小学校】

新宿区立早稲田小学校

■　学校の共通目標

授業作り	重点	①タブレット端末を十分に活用し、児童一人一人の個別最適な学びを推進する。 ②教師と児童で授業を創り、問題解決型の学習を進めていく。 ③授業のユニバーサルデザイン化を推進し、自分に合った多様な学びへの授業改善と、児童一人一人が分かりやすい授業づくりを展開する。	中間評価	①タブレット端末を活用し授業公開や他学級の参観などを実施しながら、個別最適な学びにつなげた。 ②算数を中心に児童主体の問題解決型の学習を行った。 ③焦点化・視覚化・共有化を視点として授業のユニバーサルデザイン化に取り組むことで、児童一人一人に合った多様な学びへの授業改善につなげた。 以上のことから、重点に沿った取組が進んでいると評価する。	最終評価	
環境作り	重点	①児童が安心して学校に通えるように、新型コロナウィルスの感染防止策を徹底するとともに、安全・安心を第一に考え、学習に集中して取り組める環境を整える。 ②互いに認め合い励まし合える学級づくりを進めるとともに、ＩＣＴ機器等を活用し、学習効果を高める。 ③常に保護者・地域と連携し、教育環境を整え、児童が学びに向き合い、自ら考え行動する教育を推進する。	中間評価	①感染状況や区の方針に応じて、学習環境の整備を図ることができた。 ②互いに認め合い励まし合う雰囲気づくりのために、アンケート結果などをもとに組織的に行った。また、校内研修を実施することで、学習効果を高めるためのＩＣＴ活用につなげている。 ③保護者・地域と連携し、多様な教育活動の支援を受け、地域資源の活用につなげている。 以上のことから、重点に沿った取組が進んでいると評価する。	最終評価	

■　学年の取組内容

学年	教科	学習状況の分析（10 月）	課　題（10 月）	改善のための取組（10 月）	最終評価（２月）
1	国語	学タブレット端末のデジタルドリルを使用することで、書字が難しい児童でも抵抗感が少なく、新出文字の練習をすることができている。しかし、今まで使用していたドリル形式のものに、繰り返し文字を書いて練習をする機会が少なくなったため、十分定着できていない。 学文章を書きたいという意欲はあるが、「書きたいことはあるが、どう書けばいいか分からない」という様子も見られる。	・文字の定着を図るために、習得できていない文字を繰り返し練習する必要がある。 ・書きたいことを表現できるようにするために、支援する必要がある。	・宿題プリントや小テスト、タブレット端末などを活用して、習得できていない文字を書いて覚える機会を繰り返し設定する。 ・共通題材で文章を書く練習や、例文を読むことを意図的に組み込み、文章の型を提示する。また、語彙を増やすため、日常的に読み聞かせを行い、学校図書館を毎週効果的に活用するとともに、気軽に本を読めるように、学級文庫も充実させる。	
	算数	学・単純な計算問題は正答率が高いが、数の合成・分解には時間がかかることもある。 学文章問題の意味が捉えられず、立式できないことがある。	・数の合成・分解の理解を深められるよう指導する必要がある。 ・加法・減法の意味を理解するための支援が必要である。	・数学的な考え方の基礎を身に付けるために、ブロック等の操作活動を取り入れたり、タブレット端末を活用してイラストを移動させたりして、視覚的・体感的な活動を行い、数の合成や分解の理解を深める。 ・文章題を読むときに、加法・減法の確認をする習慣をつけるため、大切なキーワードに気付き、線で囲む（下線を引く）よう指導する。 ・図を用いて考えるなどして数学的な考え方の基礎を身に付けるための活動を多く取り入れる。 ・自分の考えをもたせるため、自力解決の時間を確保し、自分の考えた意見を、友達に伝えたり、友達の考えをノートに書き写したりする学習活動を行う。	

学年	教科	学習状況の分析（４月）	課　題（４月）	改善のための取組（４月）	中間評価・追加する取組（10 月）	最終評価（２月）
2	国語	学学習、読書に対して意欲的に取り組もうとしている。 学漢字は理解できているが、とめ・はね・はらいなどの細かい部分の書き方が苦手さを感じている。 学文章の中で「てにをは」等の助詞や、小書きの「や、ゆ、よ、つ」を正しく使うことの定着に差がある。	・自分の考えを詳しく、分かりやすく文章に表せるよう指導する必要がある。 ・相手に伝わるように話し、大切なことを落とさずに聞く力を伸ばしていく。	・様々な教科で自分の考えをもたせ、文章で表現する機会を多く作る。 ・年間を通してスピーチを行うことで、相手に伝わるように話す力、興味をもって聞く力を身に付けさせる。 ・授業の中で、ペアの話し合い活動を設定し、分かりやすく「話す」力や大切なことを落とさず「聞く」力を育てていく。	・国語を中心に、算数や生活などでも、自分の考えを文章にして発表する経験を積んでいる。引き続き指導する。 ・ペア活動を通して、意見交換を活発にできるようになってきている。また、聞いた事をメモするワークシートを用意することで、落とさず聞く力が少しずつ身に付いてきている。引き続き指導していく。	

	算数	学意欲的に取り組もうとしている。 学繰り上がりのたし算、繰り下がりひき算の定着に差が見られる。	・文章題のキーワードを見付けられるように指導する必要がある。式と答えを結び付けることができる力を伸ばしていく。 ・考え方を説明するための表現力を伸ばしていく。 ・基本的な計算する力を定着させる。	・文章題で重要となる言葉に注目させ、何人や何個といった答え方ができるように繰り返し指導する。 ・問題解決型の学習を取り入れ、自分の考えを説明する機会を多く作る。 ・定着に時間を要する児童に対して、反復学習をさせる。また、計算の説明ができるようになるために、言葉の式を言ったり書いたりする活動に繰り返し取り組ませる。	・文章をよく読むよう指導しても、読まずに問題に取り組もうとする児童が２～３割いる。普段の学習で、キーワードに印をつけるなど、手を動かして確認する指導をして、改善を図る。 ・考えを書くことに抵抗は少なくなってきている。相手に分かりやすく説明できるよう、書き方の例を提示したり、既習事項を見返したりすることを指導していく。	
３	**国語**	調目標値に対して、全体的に上回っている。特に、漢字を正しく読んだり、書いたりすることや、言葉の特徴や使い方に関する事項についてはよく身に付いていたことが分かる。 調「文章を書く」は、目標値を上回っているが、全体的にみると低いため、日記や感想を書く等の学習活動を引き続き取り入れ、経験したことから話題を決め、語と語や文と文のつながりに注意し、文章を書くよう指導をする必要がある。 調「物語を読み取る」ことに関して、登場人物の行動や気持ちなど想像を膨らませる力を育む必要がある。 学ペア学習では、友達に分かりやすく伝えるために考えることができている。また、よりよく伝えやすくするためにお互いにアドバイスし合う様子もあり、話し手の話に関心をもつことができている。そこで、相手の伝えたいことは何かを聞き取る力をさらに伸ばす。	・漢字を正しく読んだり、書いたりすることや、言葉の特徴や使い方に関する事項についてはよく身に付いているので、日頃からすすんで書こうとする態度を身に付させていく。 ・経験したことから話題を決め、自分の気持ちや考えを文章で書き表すことができるよう指導していく。 ・登場人物の行動や気持ちなど、叙述を基に想像を膨らませて物語を読み取る力を伸ばしていく。 ・相手の伝えたいことは何かに気を付けて聞いたり、話の中心に気を付けて聞いたりする力を伸ばす必要がある。	・新出漢字の指導において、部首や「とめ・はね・はらい」を意識させて書かせる。漢字の練習に繰り返し取り組ませるために、タブレット端末（デジタルドリル）を活用する。 ・日記など、日常的に書く活動を入れる。 ・想像を膨らませて読ませるために、叙述の会話と行動の部分を区別させる。 ・年間を通して国語辞典を活用し、語彙力を高める。 ・児童に対して、話し始める前にいくつ話すか提示する。また、話し手が何を伝えたかったのか振り返させ、説明させる。	・文字を丁寧に書こうとする意欲は向上している。しかし、漢字テスト等の結果を見ると、新出漢字の定着が十分ではないので、引き続きタブレット端末（デジタルドリル）を活用していくとともに、ノートへの書き取りを行っていく。 ・毎週末、宿題で日記を出題していることで、書く意欲が高まり~~や~~分量が増えた。また、段落を意識して書けるようにもなってきた。引き続き、どの児童も書けるように指導していく。 ・文を読み、中心を捉えることができるようになってきた。一方で問題に正対する力が十分身に付いていない。引き続き、想像を膨らませて読んだり、叙述の会話と行動の部分を区別して読んだりよう指導する。 ・意欲的に辞書引きを行っている。引き続き、単元ごとに意味調べに取り組ませる。 ・教員は端的に話すように心掛けている。徐々に話の中心を捉えて聞けるようになってきた。長い話になった際も同様に聞けるように、少しずつ内容や時間を増やし、聞く力を伸ばすよう指導する。	
	算数	調全体的に目標値を上回っている。「時こくと時間」では、生活経験とよく結び付いていて、目標値を達成している。 調「たし算」では、繰り上がりのあるたし算で目標値を下回っている。単元終了後も、繰り返し練習問題に取り組む等の指導が必要である。 調「長さ・かさ」では、目標値を下回っている。ものさしの目盛りの読み取り方は十分に定着していない。そこで、実際に測定をし、実感を伴った理解に繋げる指導が必要である。 学かけ算九九は、定着していない様子が見られる。	・かけ算九九や繰り上がり・繰り下がりのある計算が確実にできるように指導する必要がある。 ・身の回りの数や量についての関心を高め、数量についての感覚を一層豊かにしていく必要がある。	・かけ算九九、足し算、引き算はタブレット端末を活用し、計算の復習、繰り返し練習を行う。また、授業始めの３分で、本時に関わる計算の復習を行う。 ・メジャーや時計の図など、具体物を使って考えさせる。	・児童の学力に合わせて、引き続きタブレット端末を活用した計算練習や授業始めの復習を行っていく。タブレット端末で達成率が低い課題を繰り返し出題し、取り組ませる。 ・具体物があることによって、知識の理解が深まった。習熟度に合わせて具体物を半具体物へと移行させる指導を行う。	
４	**国語**	調○○は目標値に対し、同程度か上回っている。そのことから、漢字を正しく読み、正しく書く力が身に付いたことが分かる。 調○○は目標値に対し、同程度ではあるが、正答率が８割を超えていないことから、引き続き、話し手が伝えたいことの中心を捉えて、話を聞く指導が必要である。 調言葉のまとまりを意識して読むことは、新宿区学力定着度調査の結果からも全体的によくできていると言える。しかし、指定された長さで文章を書くことに課題があるため、継続的な指導が必要である。	・「話し手が伝えたいことの中心を捉えて、話を聞く」力を伸ばしていく。 ・言葉のまとまりを意識して読むことはよくできている。そこで、「指定された長さで文章を書く」力を伸ばしていく。	・話を聞く力を育てるために、全校朝会の話などを教室で文章にまとめさせるようにする。 ・決められた文字数で文章を書く力を育てるために、日頃の授業の中で「30 字から 40 字でまとめなさい。」等の指示を出す。	・話を聞く力を育てるために、全校朝会の話などを教室で文章にまとめさせるようにすることで、話を集中して聞く力がついてきた。今後も継続して指導していく。 ・決められた文字数で文章を書く力を育てるために、日頃の授業の中で「30 字から 40 字でまとめなさい。」等の指示を出すことにより、端的にまとめる力が少しずつではあるが身に付いてきた。今後も継続していく。	

	算数	調意識調査では、「算数の授業では自分の考えをノートなどに書いている。」と答えた児童が、７２％いることが分かった。また、「算数の授業では、解き方や考え方を発表する時間がある。」は６７％の児童が答えている。どちらとも区内平均を越えている。このことから、児童は、式の意味を理解し、自分の言葉で説明していると実感していることが分かる。新宿区学力定着度調査の結果からも、全ての項目が目標値に対し、同程度か上回っているため、式の意味を理解し、自分の言葉で説明する力が身に付いてきたと言える。 調既習事項の定着には個人差が見られ、特に「かけ算」や「わり算」などの計算をする力に差があることが分かった。そのため、かけ算九九や筆算の仕方、繰り上がり・繰り下がりのある計算を繰り返し指導する必要がある。	・かけ算九九や筆算の仕方、くり上がり・くり下がりのある計算の力をさらに伸ばしていく。 ・基礎基本の知識が身に付いている児童に対しては、比較的長い文で分かりにくい表現が使われている文章問題について、身に付けた知識・技能で工夫して論理的に解答できる力を養う。	・計算のスピード、正確さを身に付させるために２５マス計算（くり上がりありのたし算・くり下がりありのひき算・かけ算）に取り組ませる。 ・基礎基本の力を大切に育てるとともに、難解な文章題にも授業や宿題で取り組ませていく。その際、分ることに実線、求めることに波線を引かせる。 ・苦手意識が強い児童には、ノートの代わりプリントを用意することで、実際に問題を解く時間を確保する。	・計算のスピード、正確さを身に付させるために２５マス計算（くり上がりありのたし算・くり下がりありのひき算）に取り組ませたことで、５月には３分以上かかっていた児童も１分余りで解けるようになった。それに伴い、わり算の筆算や小数のたし算・ひき算もスムーズにできるようになってきた。２５マスかけ算はあまり取り組めていないので１０月以降も継続して取り組ませていく。 ・引き続き基礎・基本の力を大切に育てていく。さらに、難解な文章題にも授業や宿題で取り組む際、分かることに実線、求めることに波線を引かせたことで問題をしっかりと読む習慣が身に付いてきた。今後も継続していく。 ・苦手意識が強い児童には、ノートの代わりプリントを用意し、問題を解く時間を確保したことで問題を解こうとする意欲が増し、自力解決する力もついてきた。今後も継続して指導していく。	
５	国語	調国語全体を見ると、ほとんどの領域において目標値・区平均を上回る結果となった。しかし、「書くこと」の領域は、目標値よりも１０ポイント近く下回る結果となった。漢字を書く、文章に活用するといった力を育む必要がある。	・長い文章を書けるようにするために、語彙力を高める。 ・漢字を丁寧に書こうとする意欲のある児童が見られるので、意欲を認め、字形を整えて書く力を伸ばしていく。 ・学習感想などの短い文を書く活動では、つなぎ言葉や文末表現に気を付けて書くことができる児童が多くいる。そこで、既習漢字を定着させ、長い文章を抵抗なく書ける力を育んでいく。	・デジタルドリルを活用し、漢字を反復練習させることで、既習事項の内容や新出漢字を身に付けさせる。 ・字形を整えて書くことができるように、日常的にデジタルドリルを活用して、確認していく。 ・漢字の習熟度を確認するミニテストを繰り返し行っていく。 ・他教科と横断的に学習を進め、文章を書く機会を増やしていく。（学習感想や社会科の新聞等）	・デジタルドリルを活用し、漢字を反復練習させることで、字形やはね、はらいなど意識をする児童が増えてきた。引き続き取りませる。 ・日常的にデジタルドリルを活用していくことで、字形を整えて書く児童が増えてきた。引き続き取り組ませる。 ・漢字のミニテストを行うことで児童の習熟度を確認し、結果に応じて反復練習や再テストに取り組むように指導する。 ・国語科の読書感想文や家庭学習を通して、児童の文章を書く機会を増やすことで、漢字を使うようにする意識が少しずつ芽生えてきた。書く機会を設け、自分で漢字を書く力を高めていく。 ・文章を書く際、伝えたいことを明確にすることや、文章の組み立て方、文末表現の工夫等について指導する必要がある。	
	算数	調ほとんどの領域において目標値・区平均を上回る結果となった。しかし、「変化と関係」の領域は、区平均よりも２．５ポイント下回った。２つの数量の関係について繰り返し指導する必要がある。	・単純な計算や小数点の位置、単位を変えて数字を表すなどを、丁寧に取り組むように指導する。 ・図形領域である作図に関しては、正確に長さや角度を測ったり、定規を使って直線を引いたりすることについて、十分に身に付くよう繰り返し指導していく。	・デジタルドリルを活用し、既習事項の内容や計算の学習を定期的に配信し、家庭学習で繰り返し行う。 ・ノートの罫線を意識せずに計算をしている児童が見られる。そこで、筆算に取り組ませる際、縦の罫線を意識し位に気を付けて書くように指導をする。 ・計算が終わった後、必ず確認する作業を定着させていく。 ・他教科の学習でも、定規を使って線を引くことを徹底し、道具の使い方を身に付けさせていく。	・デジタルドリルを活用し、毎日の家庭学習や授業の適応問題に取り組ませたことで、既習事項の内容や計算を身に付けることができるようになった。引き続き取り組ませる。 ・ノート指導を徹底することで、罫線を意識して筆算に取り組むことができるようになった。今後も指導を徹底していく。 ・図形の長さや角度を測ることはできるようになった。作図について指導する必要がある。個別指導を通して、定規や分度器、コンパスの使い方を身に付けさせていく。	
６	国語	調情報の扱いに関する事項や、言葉の学習の内容については、全国平均・区平均ともに上回る結果となった。 調目標値は全項目で達成はできているが、「漢字の読む」や「物語の内容を読み取る」については〇〇を１ポイント下回っていた。 学漢字の定着度に差がある。習った漢字を使って書くことを習慣化できるように指導していく。	・漢字を読んだり、活用したりする力を育んでいく。さらに、習った漢字を使って書く習慣を身に付させるために、繰り返し指導を行う。 ・物語の内容を読み取ったり、自分の考えを文章に表現したりすることができるようにする。	・情報の扱いに関する事項や言葉の学習の内容については、今後も授業の中で積極的に取り扱い、引き続き力を伸ばしていく。 ・考えを文章で表現させる前に、ペアやグループの交流を取り入れ、思考・判断するきっかけを作る。そうすることで、叙述を基に、自分の考えを文章で表現することに対して、苦手意識をなくすようにする。 ・出来ていることや主体的に学習に取り組む姿勢を賞揚する言葉掛けを意図的に行い、意欲の持続を図る。	・言葉の学習の内容や漢字の学習については、６学年で習った漢字や言葉を使って書く習慣が身に付くような指導を繰り返し行ってきた。その結果、活用することができている。今後、前年度までに学習したものも含めて、繰り返しの学習で定着を図っていく。 ・自分の考えを表現することに対しての苦手意識がまだある。意図的なグループやペアで交流するように働きかけ、より考えに自信をもち、表現できるようにしていく。	

	算数	調全国平均よりも高い結果であったが、区平均よりは０．４ポイント低い結果となった。「図形の角」や「体積」の観点では高い結果となった。 調「分数と小数」「小数のかけ算・わり算」「単位量あたりの大きさ、比例」の内容については区平均と比べて１ポイント低い結果となった。特に「分数のたし算」に関しては、基本的な計算の仕方や考え方が十分に定着していない。 学計算間違いが多く見られる。単純な計算間違えから、小数点の位置、単位を変えて数字を表すことを定着させる必要がある。	・「分数と小数」「小数のかけ算・わり算」「単位量あたりの大きさ、比例」について、問題文を丁寧に読み取とる力や、計算の仕方や考え方を熟考する力を育てる。 ・「分数のたし算」について、基本的な計算の仕方や考え方について繰り返し指導していく。 ・小数点の位置、単位を変えて数字を表すことを繰り返し指導し、単純な計算を確実に答えられる力を育てる。	・「図形の角」や「体積」などの量と測定の力があるので、具体物やタブレット端末を活用して、説明する力を高めていく。 ・計算の仕方や考え方を表現する活動を多く取り入れ、答えに対する道筋を明確にさせるようにする。 ・家庭学習で、タブレット端末のデジタルドリルを活用して、繰り返し学習に取り組ませる。 ・出来ていることや主体的に学習に取り組む姿勢を賞揚する言葉掛けを意図的に行い、意欲の持続を図る。	・計算の仕方や考え方を説明する活動を多く取り入れたことで、立式や演算決定の理由を明確に説明できるようになった。体積の学習では、実際に角柱に触れたり、タブレット端末で立体を回転してみたりすることで、立体に対するイメージや感覚が身に付いた。今後も具体物やタブレット端末をさらに活用して、論理的思考力を向上させていく。 ・分数の計算や通分、約分でつまずくことがある。デジタルドリルをさらに活用して、前年度までの学習の復習を多く取り入れ、基礎的な計算力の定着を図る。	
音楽		学低学年は、音楽に合わせて体を動かそうとする姿や歌おうとする姿が多くみられるが、友達と一緒に声を合わせて歌ったり、拍を感じてリズムをうったりすることが難しい様子が見られる。 学中学年は、学習に対する意欲が高く、歌唱や器楽など、どの活動にも意欲的に取り組む姿が見られる。コロナ禍でリコーダーの学習が不足しているため、リコーダーの学習を苦手に感じている様子が見られる。 学高学年は、頭声できれいに発声することができている。曲想や楽典に関する知識に差があり、楽曲分析を行う際に差が生じる状況である。	（低学年） ・友達と一緒に声を合わせて歌えるように指導する。 ・拍を感じながらリズムを打つく力を育てる。 （中学年） ・相手の声を聴いて、自分の声や音を合わせて歌う技能を高める。 ・リコーダーのタンギングについて繰り返し指導していく。 （高学年） ・音符の名前や長さを理解できるように繰り返し指導する。 ・曲想と音楽の構造や歌詞の内容の関わりについて指導する。	（低学年） ・互いの歌声や伴奏を聴く活動を取り入れる。 ・拍を感じられる手遊びやリズム遊びを取り入れる。 （中学年） ・自分の声や音を全体の中で調和させることができるように、友達の声や副次的旋律、伴奏を聴いて演奏するように声掛けをしたり、活動の展開を工夫したりする。 ・タンギングが意識できるような曲を、繰り返し練習させる。 （高学年） ・児童が感じ取った曲想を基に、音楽の構造や歌詞の内容に目を向けさせる学習活動を多く取り入れる。	（低学年） ・音楽に合わせようとするようになってきたが、聴くことを意識するため交互に歌う教材等を取り入れる。 ・拍感を養うリズム遊びを取り入れていく。 （中学年） ・頭声発声を意識させて歌い、友だちの声を聴きながら同じような声で歌えるよう意識させる。 ・タンギングは意識できてきたが、音の長さが保てないので、息づかいについても指導する。 （高学年） ・楽譜に出てくる記号は全員で確認しながら学習を進めている。 ・曲想と音楽を特徴づけている要素と音楽のしくみの関係を歌唱や鑑賞で身に付けつつあるが、引き続き指導することで、知識の定着を図っていく。	
図工		学創造する楽しさを感じ、意欲的に活動に取り組む。 学製作には意欲的に取り組むが、鑑賞に関心が薄い。	・じっくりと考えたり、作品をつくり込んだりする等、学習を深められるように指導していく。 ・道具の使い方が十分に身に付させ、自分の思いを表現できる力を育む。 ・鑑賞では、関心をもって友達や他学年の作品を鑑賞する力を伸ばしていく	・タブレット端末を活用させることで、資料を探したり、参考作品の画像を参照したり、アイディアスケッチをワークシートで作成したりして、表現を深められるようにする。 ・チェックカード等を活用することで、児童が自分の考えを深めたり、アイディアを広げたりすることができるようにする。 ・表現する意欲を高めるために、材料・環境・友達等、表現と出合う場面の設定を工夫し、感性や想像力を活性化させる。 ・鑑賞の際は、見るポイントを提示することで、児童が関心をもって活動できるようにする。	・児童がすすんでタブレット端末を活用し、自分で資料や参考画像を調べて製作に取り組む姿が見られるようになってきた。引き続き、タブレット端末を使用する機会を設ける。 ・チェックカード等を活用し、アイデアを広げられた児童もいたが、考えが深まらず、モチーフが思い付かない児童もいた。製作の途中でアイデアを共有し、板書をして確認できるようにして、発想が広がるようにしていく。 ・絵本や動画等を活用し、児童が興味・関心をもって主体的に活動に取り組めるよう、導入の工夫を行っている。 ・鑑賞の際は、見るポイントを提示したり、ワークシートを工夫したりして、引き続き児童が関心をもって活動できるようにしていく。	
特支		学他者との相互意思疎通が苦手な様子が見られる。 学流暢に読んだり、ある程度の速さで書いたり、計算したりすることが苦手な様子が見られる。 学集中して活動に取り組んだり、話を聞いたりすることが難しい状況である。	・語彙の未熟さや、場面や状況ごとの適切な対応力、表現力が十分に身に付いていない状況があり、相手意識をもたせられるような指導や語彙、計算、書字の力を高められるよう指導等、自立活動の充実に取り組む必要がある。 ・持続して取り組む力や周囲の環境への対応力を身に付けることが必要である。	・前期の間に個別指導の中で、後期には小集団指導の中で意思疎通のために必要な対人スキルを身に付けられるよう指導する。 ・読み書きに課題のある児童に対しては、MIMやSTRAW-R 等のアセスメントツールを使って評価しながら、児童の特性を把握し、語彙や書字、計算能力を高める指導を行う。 ・注意、集中、衝動性に課題がある児童については、前期の間に自己認知と周囲の理解（環境調整等）を高め、後期には児童が置かれた環境の中で集中を保てるように、保護者と連携を図りながら医療機関も視野に入れて指導の計画を立てていく。	・個別指導の際にで意思疎通に必要な対人スキルを身に付けるように指導してきたことで、小集団学習でもお互いに会話をしたりやり方を教え合ったりする姿が見られてきた。さらに自己理解を促しながら他者とより良い関係を築かせる指導をする。 ・児童の特性に合わせた指導の工夫を行うことで、語彙や書字、計算能力が向上しつつある。さらに、指導を継続することで達成感・成就感を高める指導をしていく。 ・自己認知と周囲への理解を高めるよう保護者や担任教諭と連携を図ってきた。個々の特性に合わせながら、周囲の理解を深めつつ集中力を維持できる方法を身につけさせていく。今後も医療機関との連携に努めていく。	

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況　　学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト、デジタルドリル等から見える学習の状況　　※分量は２ページ以上となってもよい。